

自民党県議団政調会長 兵庫県議会議員

北口ひろと

県政報告



インタビュー特集

北口寛人が語る、県政の現状とその課題

皆さんこんにちは。日頃からの温かいご支援に心から感謝申し上げます。現在兵庫県議会では2月定例会議において令和5年度の各種事業に伴う県予算を審議しています。私は最大会派である自民党県議団で政務調査会長として予算及び次年度事業について意見集約する立場にあります。限られた紙面ではありますが、ここに現在の兵庫県政課題についてその概要をご報告させていただきますのでご一読頂ければ幸いです。

令和5年度当初予算編成へ

第360回定例会議 代表質問(抜粋)

集案のご案内

議会第一会派である自民党政調会長は重要な職務です。会派内では予算議案、条例議案等の賛否の取りまとめを行います。その過程で知事を始めとする県当局に政策提言を行ったり、予算の要望を行ったりしています。また知事や当局と意見調整をする場面も多々あります。まさに調査し調整をする役割です。また、自民党政調会長は、各会派の政調会長の座長として各会派間の調整も行います。その目的は、国や各府県に兵庫県議会から意見具申をするための「意見書」の取りまとめです。この意見書は、県民の意見即ち地域地方の生の声を国に届けるとても大切なものです。

政務調査会長とは

どんな役割ですか？

また、私は斎藤知事が県議会に諮問した行政改革の特別委員会の委員としても積極的に活動して来ましたが、変えるべきものを守るべきものもしっかり見分ける事に力を注ぎ成果を得ることができました。

北口寛人が語る、
県政の現状と
その課題

今年度の議会活動、
政務活動を総括すると？

会派は基本的に同じ考えを持つ議員が集まったグループです。私は議会の最大会派である自民党県議団に所属しています。わが会派は部会制度をとっており、総務、健康福祉、産業労働、建設、農政環境、文教、警察の各部会で見当局や専門分野で活動する県民の皆さんなどを対象に政務調査を行い、部会討議を経て意見集約を行います。そして各部会の意見を最終的に会派意見として取りまとめる役割が私が務める政調会長の職務です。

議会の会派とはどんなもので
どんな活動をしているのですか？

北口 寛人 きたぐちひろと

二見町生まれ大久保町在住
白陵高校
慶應大学経済卒
三菱重工元社員
元明石市長(2期)・県議会議員
(3期)・自民党議員団政調会長
行政書士・宅建士
兵庫県スキー連盟副会長
社会福祉法人理事



~50数年を経て~

北口ひろと事務所

〒674-0092 明石市二見町東二見 470-6 山陽ビル 3F
TEL・FAX : 078-915-7230 E-mail : info@hiroto.club

ホームページはこちら

<https://hiroto.club/>



令和5年度当初予算編成へ 重要点提言6項目 7分野で307項目申し入れ

重要点提言6項目

- 1 新型コロナの総合的な対策の展開
- 2 兵庫五国の価値を高める地域創世の推進
- 3 ポストコロナ社会の実現
- 4 誰も取り残されない調和のある社会の構築
- 5 安心安全な県土づくりの実施
- 6 未来を切り拓く政策の研究と推進



代表で、伊藤傑幹事長(神戸市須磨区選出、右)と北口寛人政調会長(明石市、左)が知事に令和5年度当初予算に申し入れ書を手渡しました

我が会派は11月、令和5年度当初予算編成への申し入れを県当局に行いました。急激な物価高騰が日常生活を圧迫し、企業の倒産急増が懸念されるなど、コロナ禍に加えて難局に直面しています。こうした社会情勢を踏まえ、6つの重要点項目と部会ごとの307項目を提言。感染症対策や保健所体制の再構築、ポストコロナ社会を見据えたデジタルトランスフォーメーション(DX)、鳴門の渦潮や美方郡産但馬牛の世界遺産登録、国の防災庁(仮称)の設置と誘致、県庁舎等再整備の早急な検討、独自の在宅育児手当の創設などを求めています。

自由民主党
兵庫県議団
第360回定例会議(抜粋)

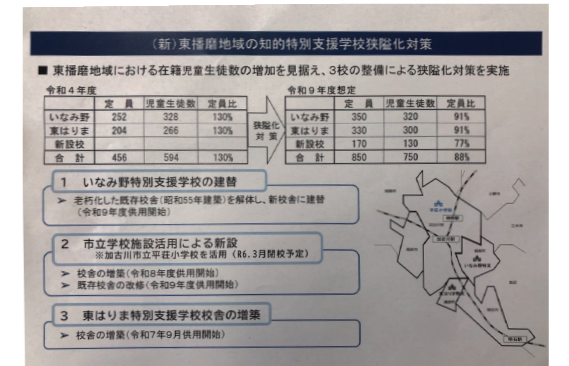
代表質問
齋藤知事が英断!

特別支援学校を増設へ!

北口 東播地域では児童生徒が増え教室が不足するなど、教育環境の整備が求められている。現状認識と環境整備の検討状況、今後の見込みは。

知事 東播地域2校の狭隘化対策については各方面から要望を受け早期整備の必要性を認識している。

現在整備を検討しており、具体的には、既設学校の老朽化や敷地の状況を踏まえ、活用可能な施設等の情報提供を地元市町に求めるなど、狭隘化の早期解消に向けた整備手法を、来年度当初予算編成過程において検討していく。



県政・市政報告会のご案内

3/16(木) 19:00- 明石市民会館 大ホール

3/19(日) 10:00- みなと記念ホール 東二見
11:30- 岡の上公民館 西二見
14:00- 西明石キャッスルプラザホテル

3/26(日) 10:00- 魚住市民センター
14:00- 大久保市民センター
19:00- 生涯学習センター 学習室(アスパシア明石内)



弁士 西村康稔
経済産業大臣 他

— 会派を代表して行った 12月の本会議代表質問の概要は？

第一に『地域創生事業の組み換え方針』について。
第二に『県政改革方針で継続検討となっている項目から県庁舎の再整備と明石公園を始めとする県立公園の整備管理方針』について質問しました。
第三に『兵庫県の産業活性化のために必要であるスタートアップ(起業支援)』について。
第四に『コロナ禍において必要とされる高齢者の支援策』について、老人クラブ活動支援費の確保と介護予防の充実を。
第五に『韓国での雑踏事故を受けて明石歩道橋事故の教訓の再点検を求めて』。
第六に『有機農業への戦略的取組み』について。
第七に『東播磨地域の特別支援学校の過密化に対応して増設を求める』。
以上の内容で代表質問を行いました。これらの詳細は前号の県政報告紙やエドで確認下さい。各項目は現在その実現にむけ鋭意フォローしています。



— 市長経験者として、知事・市長等の 首長と議員との違いをどう感じる？

どちらも県民・市民に選挙で選ばれた民意の代表者である事は同じですが、両者で構成する二元代表制の中では役割が違います。予算、決算、条例等の議案は、首長が議会に提出し、議員で構成する議会が様々な審議をしてときには修正も加え、それを決定する訳です。そして、首長は、予算や条例に従って、様々な政策や事務事業を執行していきます。議会は

たと聞く。個人や企業のマッチングなど、兵庫県はどう取り組むのか。

知事 企業プラザひょうごを核にスタートアップ、企業などが出会い、新ビジネスに取り組むシステムをつくる。

北口 東播磨地域の特別支援学校をできるだけ早期に整備してほしい。

教育長 狭あい化の早期解消に向けた整備手法の検討を進めている。令和5年度の当初予算編成で検討したい。

代表質問 第360回定例県議会(抜粋)

北口 新たな支援制度「躍動する兵庫応援事業」の県・市町連携枠について、各市町村の意見をどう反映したのか。

知事 新設の県・市長会・町村会政策懇談会で意見交換し、一定の評価をいただいた。予算編成で改良し、効果的な施策を展開する。

北口 京都、大阪ではスタートアップが育ち、上場も果たし

その執行段階においては、要望と言う形で政策実現に関与します。さらに首長の予算・事業の執行が適切であったかどうかを審議し決算認定を行います。一言で言えば、首長と議員議会は役割と権限が違います。執行責任すなわち行政行為の責任は首長に重くのしかかっており首長の職責はとても重い物ですしそのプレッシャーも半端ない物です。それが実感として分かるからこそ議員として議会の役割をしっかりと果たすと共に知事に様々な場面で建設的な提言をし補完して行ける様に努めています。八年間の市長経験を経験として会派政調会長として生かしていくのが私の務めだと考えています。



— 様々な県政課題を 県民と共有するためには？

様々な場面で県民市民の皆様からご意見をお聞きすること、議員・議会活動や県政情報などをしっかりと発信していく事が大切です。あいにく、この三年間はコロナ禍にあり、様々な行事等も中止されたため直接県民・市民の皆さんと触れ合い意見交換する機会が激減してしまいました。そんな中、リモートやSNSなどの新しいツールもあるので、そこは工夫してやっていかなければならないことは確かです。しかし、そのやり方にももともと工夫が必要だと考えます。どうすれば皆さんに関心を持っていただき、双方向で意思疎通が出来るのか大きな課題だと認識しています。

— 東播磨・明石市における 県政課題は？

一つにはこの一年明石公園の管理のあり方がクローズアップされました。樹木を伐採し過ぎではないかと言う指摘を受け知事への申し入れや本会議での質問などに取組み、改善に努めてきました。老朽化した明石球場や陸上競技場の改修についても申し入れを行い、早期の改修に目処をつけることができました。
明石市内に立地する県立がんセンターの建て替え事業も大切です。建設費の高騰もあり予算の増額も必要となるなど課題も残されていますが更なる診療内容の充実も含めしっかり取り組みます。
東播磨、地域の特別支援学校の増設についても力を入れています。地域に二つある特別支援学校をもう一校増やすことを目指しています。
総じて明石市と県との連携の強化、すなわち更なる信頼関係の構築が大きな課題です。県市連携の橋渡し役として更に努力して行きます。

— 県政課題としての少子 化対策についての考えは？

少子高齢化と人口減少はわが国の最重要課題です。兵庫県でも言うまでもなく、少子高齢化が進み人口が減少しています。国も「こども家庭庁」を作るなど、少子化対策に本腰を入れていますが、効果ある打開策を見出せてはいません。女性の就業率の向上が一因と



— 人口減少への取り組みはどう進める？

の指摘もありますが女性活躍社会の実現は好ましいことであり議論の本質は、男女を問わず、いかに仕事と家庭を両立させていくかと言うワークライフバランスの問題です。そして育児や子育てを個人の問題に止めず、社会全体の取り組みとする必要があり、そこに行政の役割があります。自らも取り組んできた地元明石市での取り組みを、県政の場で紹介しながら子育てしやすい兵庫県を目指していきます。

地域人口の増減を見るには出生数死亡数による自然動態と自治体間の転入転出による社会動態がありますが、本質的には自然動態を議論すべきです。その手法は様々な議論されていますが決め手に欠く現状です。効果をあげたフランスでの※N分N乗方式なども参考に更なる取組みが必要だと考えます。
※【N分N乗方式】所得税の課税方式の一。世帯所得の合計を世帯人数で割った金額に税率をかけ、算出された税額に世帯人数をかけて、世帯の課税額を算出する。収入が同じでも扶養家族が多いほど納税額を低く抑えられるため、少子化対策として導入が議論されている。

— 超高齢社会への対応は？

長寿を心から喜ぶことができる社会の実現が求められます。健康寿命を延ばすために、地域での介護予防への取り組みが重要です。介護予防の担い手の一つでもある高年クラブの支援も県に強く求めています。高齢者も安心できる地域コミュニティの再構築も必要です。そしていざと言うときに高齢者を支える医療、介護、福祉分野では明石市等の基礎自治体と兵庫県、国の連携と役割分担が重要です。さらに開始以来

— 地域防災についての県政課題は？

行政の最大の使命は、危機管理であると言っても過言ではありません。阪神淡路大震災(兵庫県南部地震)から二十八年が経ち、明石歩道橋事故、大蔵海岸砂浜陥没事故から二十一年が経ちました。これらの痛ましい災害や事故を経験した兵庫県として、その教訓を風化させることなく生かし続けていくために様々な取り組みが必要で、子供たちへの防災教育もその一つです。直接的な対応策としての災害に強いまちづくりの重要性も言うまでもありません。道路、橋梁、護岸、更には電気・ガス・水道等のインフラ設備の点検・整備・改良を怠ることなく、地道に進めていく必要があります。また、消防団を始めとする地域のコミュニティの強化も必要です。ハード・ソフト両面にわたる取り組み強化で命を守るまちづくりを進めなければなりません。



自民党県議団 齋藤知事を囲んで